



平成22年12月期 第1四半期決算短信

平成22年5月13日

上場会社名 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
 コード番号 2573 URL <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角野 中原
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部担当 (氏名) 前田 則彦
 四半期報告書提出予定日 平成22年5月14日
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 東 札

TEL 011-888-2051

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	12,801	△5.7	△420	—	△408	—	△380	—
21年12月期第1四半期	13,577	—	△776	—	△773	—	△801	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第1四半期	△10.43	—
21年12月期第1四半期	△21.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第1四半期	42,784	33,913	79.3	928.14
21年12月期	43,551	34,507	79.2	944.40

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 33,913百万円 21年12月期 34,507百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	6.00	—	6.00	12.00
22年12月期	—	—	—	—	—
22年12月期(予想)	—	6.00	—	6.00	12.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	29,300	△1.5	△350	—	△350	—	△250	—	△6.84
通期	62,800	0.0	200	—	200	—	300	—	8.21

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期第1四半期 38,034,493株 21年12月期 38,034,493株

② 期末自己株式数 22年12月期第1四半期 1,495,108株 21年12月期 1,495,672株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年12月期第1四半期 36,539,220株 21年12月期第1四半期 36,540,378株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる場合があります。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費が持ち直し、企業収益に改善の動きが見られるなど、景気が着実に持ち直してきました。しかしながら自律性が弱く、失業率は依然高水準にあるなど、厳しい状況となりました。

清涼飲料業界では、デフレの影響による低価格販売に歯止めがかからず、とりわけ北海道においては、引き続き個人消費の動きが鈍く、厳しい状況が続きました。

このような状況のなかで、本年度は昨年よりスタートした中期経営計画「Restart2009～北の大地とともに～」のもと、収益性の高い商品の販売強化や自動販売機ビジネスにおける既存機の売上拡大及び新規開拓への注力などセールスの拡大につとめました。また、カスタマーセンターの機能強化を行うとともに、提案活動の充実をはかり顧客満足度の向上につとめました。その他、昨年発売した国内最軽量のペットボトルを使用したミネラルウォーター「い・ろ・は・す」（採水地：札幌市清田区）は、地産地消及び環境保全への取り組みが消費者に支持され、堅調な販売推移を示しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、128億1百万円（前年同期比5.7%減）、営業損失は4億2千万円（前年同期は7億7千6百万円の営業損失）、経常損失は4億8百万円（前年同期は7億7千3百万円の経常損失）、四半期純損失は3億8千万円（前年同期は8億1百万円の四半期純損失）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

《飲料・食品製造販売事業》

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント間消去前売上高は、124億1千2百万円（前年同期比4.9%減）、営業損失は4億1千5百万円（前年同期は7億5千1百万円の営業損失）となりました。

《その他の事業》

その他の事業は、貨物自動車運送業、保険代理業及び書籍等の販売で構成されております。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント間消去前売上高は、8億7千1百万円（前年同期比39.4%減）、営業損失は2千1百万円（前年同期は4千9百万円の営業損失）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、427億8千4百万円（前連結会計年度末は435億5千1百万円）となりました。これは主に、有形固定資産が増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金、前払年金費用が減少したことによるものであります。

負債は、88億7千万円（前連結会計年度末は90億4千3百万円）となりました。これは主に、設備未払金が増加したものの、買掛金が減少したことによるものであります。

純資産は、339億1千3百万円（前連結会計年度末は345億7百万円）となりました。

これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

当第1四半期連結累計期間の連結キャッシュ・フローについては、営業活動により得られた資金は、7億3千3百万円（前年同期は7億2千5百万円の収入）になりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失4億2千5百万円、仕入債務の減少4億4千6百万円などに対し、減価償却費7億4千万円、売上債権の減少7億5千8百万円などがあったことによるものであります。

投資活動の結果によって使用した資金は、6億9千7百万円（前年同期は10億4千1百万円の使用）になりました。主な要因は、市場における競争力強化のため自動販売機等の販売機器の増設及び更新や、工場ラインの増強などの有形固定資産の取得による支出4億8千8百万円によるものであります。

財務活動の結果によって使用した資金は、2億2千6百万円（前年同期は3億1千1百万円の使用）になりました。主な要因は、配当金の支払2億6百万円によるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ1億8千9百万円減少し、55億6千4百万円（前年同期は37億5千2百万円）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成22年2月9日に公表しました予想に変更はありませんが、実際の業績は様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定であります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

簡便な会計処理

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,588	5,778
受取手形及び売掛金	3,649	4,355
商品及び製品	3,698	3,816
原材料及び貯蔵品	230	286
未収入金	1,060	1,038
その他	467	430
貸倒引当金	△16	△19
流動資産合計	14,679	15,686
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,282	7,388
機械装置及び運搬具(純額)	2,929	2,866
販売機器(純額)	4,360	4,342
土地	6,539	6,543
建設仮勘定	288	163
その他(純額)	617	368
有形固定資産合計	22,017	21,672
無形固定資産		
ソフトウェア	516	475
その他	23	23
無形固定資産合計	540	499
投資その他の資産		
投資有価証券	413	405
長期貸付金	561	586
前払年金費用	3,781	3,917
その他	858	849
貸倒引当金	△68	△66
投資その他の資産合計	5,546	5,692
固定資産合計	28,104	27,864
資産合計	42,784	43,551

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,476	2,923
未払金	1,334	1,347
未払法人税等	57	70
賞与引当金	263	—
設備関係未払金	505	170
その他	1,401	1,693
流動負債合計	6,039	6,206
固定負債		
長期未払金	876	914
繰延税金負債	1,563	1,619
退職給付引当金	163	163
その他	227	140
固定負債合計	2,831	2,837
負債合計	8,870	9,043
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,935	2,935
資本剰余金	4,924	4,924
利益剰余金	26,948	27,548
自己株式	△898	△899
株主資本合計	33,909	34,509
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3	△2
評価・換算差額等合計	3	△2
純資産合計	33,913	34,507
負債純資産合計	42,784	43,551

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高	13,577	12,801
売上原価	8,122	7,398
売上総利益	5,455	5,402
販売費及び一般管理費	6,231	5,823
営業損失(△)	△776	△420
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	0	0
受取賃貸料	7	7
その他	17	25
営業外収益合計	31	37
営業外費用		
固定資産除却損	12	11
寄付金	6	8
その他	8	5
営業外費用合計	28	25
経常損失(△)	△773	△408
特別利益	0	0
特別損失		
固定資産除却損	5	4
減損損失	—	12
投資有価証券評価損	68	—
その他	0	1
特別損失合計	74	18
税金等調整前四半期純損失(△)	△847	△425
法人税、住民税及び事業税	36	24
法人税等調整額	△82	△69
法人税等合計	△46	△45
四半期純損失(△)	△801	△380

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△847	△425
減価償却費	747	740
減損損失	—	12
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	273	263
退職給付引当金の増減額(△は減少)	204	135
受取利息及び受取配当金	△5	△5
固定資産除売却損益(△は益)	17	15
投資有価証券評価損益(△は益)	68	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,353	758
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,278	173
仕入債務の増減額(△は減少)	1,886	△446
未払消費税等の増減額(△は減少)	△48	△68
その他	△538	△386
小計	834	764
法人税等の支払額	△108	△31
営業活動によるキャッシュ・フロー	725	733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△830	△488
有形固定資産の売却による収入	0	4
無形固定資産の取得による支出	△41	△75
投資有価証券の取得による支出	0	0
貸付けによる支出	△182	△66
貸付金の回収による収入	2	1
利息及び配当金の受取額	5	5
その他	3	△77
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,041	△697
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	—	△19
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△310	△206
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△311	△226
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△627	△189
現金及び現金同等物の期首残高	4,380	5,754
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,752	5,564

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)

種類	飲料・食品 製造販売事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	13,055	522	13,577	—	13,577
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	915	915	(915)	—
計	13,055	1,437	14,493	(915)	13,577
営業損失(△)	△ 751	△ 49	△ 801	25	△ 776

(注) 1 事業区分の方法は日本標準産業分類を参考とし、事業実態に合わせて区分しております。
2 各事業区分に属する主要な商品及び製品の名称等は、次のとおりであります。

事業区分	主要な商品及び製品の名称等
飲料・食品製造販売事業	コカ・コーラ、ファンタ、ジョージア、アクエリアス、一(はじめ)、爽健美茶、煌、紅茶花伝、クー
その他の事業	貨物自動車運送業、保険代理業、書籍等の販売、冷蔵冷凍機・空調機器の修理

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

種類	飲料・食品 製造販売事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	12,412	388	12,801	—	12,801
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	482	482	(482)	—
計	12,412	871	13,284	(482)	12,801
営業損失(△)	△ 415	△ 21	△ 436	15	△ 420

(注) 1 事業区分の方法は日本標準産業分類を参考とし、事業実態に合わせて区分しております。
2 各事業区分に属する主要な商品及び製品の名称等は、次のとおりであります。

事業区分	主要な商品及び製品の名称等
飲料・食品製造販売事業	コカ・コーラ、ファンタ、ジョージア、アクエリアス、一(はじめ)、爽健美茶、い・ろ・は・す、紅茶花伝、クー
その他の事業	貨物自動車運送業、保険代理業、書籍等の販売など

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)において、本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)において、海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
該当事項はありません。